中期計画（2025/4～2030/3）の策定について

・2024年8月より検討を開始。当財団に対する社会・人々の期待をヒアリングし、財団のリソース・ノウハウ等の強みを活かした素案を策定。同年12月に役員等意見交換会を実施し意見を募った。
・意見交換会での「重点を絞るべき」「経常業務との区別を明確にすべき」等の意見を踏まえ、今般、以下の計画案を策定。

1．環境認識

■ 財団をとりまく内外環境や各層へのヒアリング等を踏まえて、2020年代後半に意識すべきキーワードは（1）分断と共生と（2）変化への対応に集約される。それぞれのカテゴリーを象徴するテーマを計11選定。

■ 新一万円札発行記念事業の特別展**「愛と公益　渋沢栄一が目指した世界」**のメッセージ等を踏まえ、11のテーマの中から【国際関係】・【少子高齢化】・【テクノロジー】・【栄一への関心】の4つを中期計画の重点テーマとする。

（1）分断と共生（分断の深刻化・先鋭化等）

◎	**国際関係**	・ロシアのウクライナ侵攻(2022年4月～)→国連の機能不全、**自国ファースト席巻、民間外交の可能性**
	宗教対立	・パレスチナ・イスラエル戦争(2023年10月～)→原理主義による排他的な動き
	イデオロギー	・右派と左派、移民対応等、極右政党の躍進→価値観の多様化、民主主義の疲弊
	貧富の差	・富裕層と貧困層。資本主義下では自然に拡大する→貧富の差の拡大、一方で補助・給付による社会主義化
	地域格差	・都市と地方とでインフラ・サービス等の格差が拡大→自然体では格差拡大傾向に、普及活動も偏在化

（2）変化への対応（将来への不安と希望等）

◎	**少子高齢化**	・歯止めかからず、いろんな意味で社会の担い手不足による社会構造の変化→**多様な人々へのアプローチ**
◎	**テクノロジー**	・デジタルシフト、AIでの社会変革→情報伝達媒体・ツールの**進化と利便性・生産性の向上。半面、変化への抵抗も**
◎	**栄一への関心**	・大河ドラマ、新札発行で、注目度上昇→**マス層の関心の高まりは、時間経過、さらに世代交代とともに剥落へ**
	パンデミック	・コロナ禍(～2023年５月)→未知の事態への恐怖。政府への過大な期待。「会う」ことの重要性再認識
	災害	・震災・台風巨大化・線状降水帯の長期化→復旧遅延、不安とあきらめ。災害対応では助け合いを再認識
	多様性社会	・ダイバーシティの浸透と標準化→急激な浸透・標準化に戸惑い・抵抗あるも方向性は推進の方向か？

2．中期計画の考え方

■ 新一万円札発行記念として『渋沢栄一　つたえる・つながる・つくる』取組を実施。これは、栄一が全てにおいて大切にしていた基本姿勢であり、経常的業務においてはもちろんであるが、本中期計画においても、このスタンスで上記選定4テーマを展開する。

	国際関係	少子高齢化	テクノロジー	栄一への関心
つたえる	・栄一の民間外交の実践やその思いを、伝えていく	・栄一が創造した近代日本の姿やその思いを伝えていく	・デジタル化社会における有効な伝え方を検討する	・マス層に対して、効果的に栄一の考えを伝えていく
つながる	・民間外交を行っている団体・個人と、新たにつながり、既存のつながりを強化する	・青年層・壮年層と協働する等、つながりを強化する ・高齢者へのまなざしも大切に	・デジタル化社会での個人・法人・地域との協働の仕方を工夫する	・マス層との協働を通じて、新たにつながる、既存のつながりを強化する
つくる	栄一が目指した社会を基として、現代における豊かな社会をともにつくっていく			

3．中期計画

1. 栄一は自らの生涯において当時の「分断と共生」や「変化への対応」にどう向き合ったのか。現代社会そしてそこに生きる人々に、何らかのプラスとなるヒントを提供する。
   ①当時の栄一の行動とその基となる考えを示す。
   ②「分断と共生」や「変化への対応」にどう向き合うべきか、「今に生きる栄一」を念頭に財団としての提言を行う。
2. 財団の活動を将来につなげるべく、「分断と共生」や「変化への対応」に確りと向き合う。
   ①情報資源を含め財団からの業務展開の発信方法を工夫する。
   ②どんな「変化」にも適応できるリジリエントな組織づくりを行っていく。

	重点項目	４テーマとの紐付	経常業務
研究センター事業【公１】	研究者、関係諸機関とのネットワークを再構築し、「論語と算盤」をはじめとして栄一の思想を国内外へ発信	国際関係 栄一への関心	・渋沢栄一研究の促進・研究者育成 ・国内外における研究事業（企画）の実施・支援 ・研究成果を基に各種セミナー等の啓発事業の開催
情報資源センター事業【公2】	テクノロジーの発展を取り込んだデジタルリソースの整備・開発・提供	少子高齢化 テクノロジー 栄一への関心	・渋沢栄一および実業史関連資料の収集・整理・保存と情報資源化 ・ビジネス・アーカイブズの振興
史料館事業【公3】	改正博物館法の趣旨に則った博物館活動の強化や竜門社140年等の周年事業を展開	国際関係 少子高齢化 テクノロジー 栄一への関心	・渋沢栄一の事績、本邦実業史に関する博物館活動 ・栄一を伝える博物館として、安心安全に開館
雑誌刊行事業【公3】	次世代を意識した、会員機関誌『青淵』の見直し（内容・媒体・編集方針等）	少子高齢化 テクノロジー 栄一への関心	・月刊誌として『青淵』刊行を継続
会員・支部支援事業【公3】	今後のより有意な活動を展望した「会員」「支部」の位置づけ整理・改革	少子高齢化 テクノロジー 栄一への関心	・会員総会の開催 ・支部講演会への支援
関連事業【公3】	SNS等の更なる活用 WEBサイトリニューアル検討 外部組織との連携	少子高齢化 テクノロジー 栄一への関心	・目的やチャネルを明確にした広報活動の展開
総務	規程類の維持整備等、財団の業務・管理態勢整備によるガバナンスの向上	少子高齢化 テクノロジー	・職場環境の改善 ・事業遂行のためのサポート
経理	改正公益法人法施行への対応、社会のデジタルシフトを踏まえた業務見直し	テクノロジー	・堅確な経理・会計・財務・税務処理 ・安定収益確保と資産規模拡大を展望した資産運用業務遂行

重点項目の詳細

経常業務は除く

事業等		計画	
		内容（何をどうする・どう変える）	具体策
事業	研究センター事業【公１】	渋沢栄一研究を通し研究者・機関との関係を深める場の再構築と展開	海外研究者と国際的なテーマのシンポジウムなどの事業の実施
		渋沢栄一の考えをより広く・明解に伝える	『論語と算盤』英訳版の刊行とそれを活用した事業の実施
	情報資源センター事業【公2】	これまでに構築してきた情報資源の連携促進や利活用方法を検討	AIの活用等も視野に、誰もが利用しやすい情報資源の発信を強化
		デファクトスタンダードに基づいた汎用性のある情報資源の開発と持続的な提供	TEIによるリソース構築と公開 IIIFを用いた画像公開 リポジトリの活用
	史料館事業【公3】	改正博物館法の趣旨に則った渋沢史料館の運営見直し 時代を捉える周年事業の実施	改正登録博物館の申請 青淵文庫竣工100年、竜門社140年、日米友情人形100年等の周年事業の実施
		時代の変化に応え得る渋沢栄一の人間像を伝える博物館活動の強化	普及活動のより一層の充実 積極的な広報活動 資料のデジタル公開を実施
	雑誌刊行事業【公3】	機関誌『青淵』の次世代に向けた内容の検討とその活用	デジタル化の可能性も含め改編及び『青淵』の活用の検討 編集方針の検討
		財団の活動報告	財団の年次報告書制作の検討

事業等		計画	
		内容（何をどうする・どう変える）	具体策
事業	会員・支部支援事業【公3】	会員制度の整備	会員規則を定め、会員、支部の位置付けを明確化
		会員総会の見直し	会員総会の在り方、運営の改善
	関連事業【公3】	広報の充実化	SNS等の更なる活用 WEBサイトリニューアル
		財団事業の基盤整備	財団アーカイブの有効活用 デジタル化の推進
総務		職場環境の改善	人事制度の検討
		ガバナンスの向上	諸規程の見直し
経理		公益法人法改正への対応	法改正への円滑な対応により、財務規律の柔軟化・明確化及び透明性の一段の向上を図る
		社会のデジタルシフトを踏まえた資産運用業務のDX化	インターネットを介した各種マーケット情報や、管理ツールの有効活用等により実施